

現役生思



OBたちに支えられ、一つの区切りを



海星高3年生エースの井崎。2年生の今里と組んで個人ダブルス1部を制した。県立百花台公園テニスコート



ウェブ写真館
掲載中!!
長崎新聞 読者

長崎新聞社は県高総体の代替イベントで躍動する各競技の選手たちを撮影しています。

す。取材すが、紙数多く内「ウエ」していまも特設べます。

バババ

ソフトテニス男女は雨天のため16、17日に順延した。(緒方秀一郎)

対馬市中学総合体育大会は13、14日、同市の美津島体育館などで球技と武道の計3競技が行われ、バスケットボール男子の久田とバレーボール女子の仁田がV2を達成した。剣道女子団体は厳原が優勝。バスケットボール女子は東部、バレー

バスケットボール	
【男子】	
▽1回戦	厳原104-33豆
酸	豊玉89-43佐須
▽準決勝	久田102-26厳
原	難知68-60豊玉
▽決勝	
久	田82-51難知
【女子】	
▽1回戦	東部69-45難
知	久田63-50厳原
▽決勝	
東	部59-56久田

「その日」のために ——大学アスリートの今

■5完■

「現状維持は退化」胸に

しかなかった仁田中時代は、ソフトテニス部に所属。3年時は対馬市中総体個人で優勝すると、陸上の800メートル1位になった。野球は休日にソフトボール経験者が集まってやる程度だった。

中学卒業後、大村工高へ進学。他校のソフトテニス部からも誘われたが、やりたかった「野球部」を選んだ。非凡な才能はここから開花。1年秋から正捕手になると、3年春に県大会で初優勝、九州8強入りに貢献した。県大会の決勝では2ランも放った。

野球 白石 翔樹

(大村工高→東農大4年)



送球を最大の武器にプロ入りを目指す白石(東農大)

東京・多摩市一本杉球場(本人提供)

このころから「何となく」という評判が立つよう「夢見ていたプロ入りうになった。を「はつきり」意識する。東農大入学後も強打とよくなった。甲子園出場。精度の高い捕球、送球は場こそ逃したが「大村工周囲の目を引いた。捕手らしいけど、自分ではそういいキヤッチャーがい」の評価の一つとなる捕球。思わない。素早い動作に

こたわってきた」と謙虚しては昨秋、東都2部に努力を重ねた。挫折も味わってきた。打撃面は「自分のデータがなかった最初は良かったけど、少しずつ打てなくなってきた」。守備も「なかなか三振しないバッターが多い」と配球の難しさを痛感した。チームと

しらいし・しょうき 対馬市出身。仁田中から進んだ大村工高で本格的に野球に専念。3年春に打率6割超を記録して県大会初優勝。夏は決勝で長崎商に0-1で敗れたが、前年Vの創成館を倒すなど、チーム最高成績を残した。東農大では1年からレギュラーで活躍する。右投げ右打ち、175センチ、80キロ。

「日々、成長できる人が活躍する。満足せずにやっていく」。現状維持が困難な状況であつても、力を上げていく。その覚悟は、誰にも負ける気はない。(石田慶介)